
東北大学陸上競技部

OB 通信

2011 年 No.3 (2011.8)

秩父宮賜盃第 43 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会

兼第 29 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会

- ・ 男子総合 2 位
- ・ 菅野均(3)、深渡慎一郎(2)が東北学連選抜として出雲駅伝への出場権獲得
- ・ 及川まりや(3)、鈴木絢子(1)が東北学連選抜として全日本女子駅伝への出場権獲得

全国七大学対校陸上競技大会

- ・ 男子総合 3 位、女子総合 4 位
 - ・ 杉本和志(4)がやり投で 65m85 の大会記録更新！！
-

- ・ 全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の結果 2 ページ
- ・ 全国七大学対校陸上競技大会の結果 3~14 ページ
- ・ 自己記録更新者一覧 15 ページ
- ・ 今後の予定 15 ページ
- ・ 編集後記 16 ページ
- ※[お知らせ] OB 通信発行方法の変更について 16 ページ

猛暑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、主に秩父宮賜盃第 43 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 28 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会、ならびに第 62 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 22 回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

秩父宮賜盃第 43 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 29 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会(7/17) 於 仙台大学

真夏日の中、仙台市陸上競技場にて全日本大学東北地区予選会が行われました。男子は 4 組に分かれ 10000m、女子は 2 組で 5000m を走り、合計タイムで競いました。日差しが強く、黙っていても汗がにじみ出てくるような真夏日で過酷な状況で、東北大学男子チームは 8 人全員が気迫の走りを見せました。惜しくも 40 秒程 1 位には届かず全日本大学駅伝への出場権を手に入れることはできませんでしたが、しかしそんな中最終組で好走を見せた菅野均(3)と深渡慎一郎(2)が東北学連選抜として出雲駅伝への出場権を獲得しました。女子チームはオープンでの出場となりましたが、及川まりや(3)、鈴木絢子(1)、そして宮城大学から村松純(2)が東北学連選抜として全日本大学女子駅伝への出場権を獲得しました。

● 男子団体戦結果

総合 2 位 4 時間 27 分 23 秒 7

組	氏名	学年	記録	組	総
1	新田 和樹	M2	33'47"6	3	26
	山本 悠平	2	33'45"2	2	25
2	尾形 翔平	3	33'53"8	4	28
	藤澤 萌人	2	33'27"0	2	17
3	木村 慎太郎	3	33'35"8	4	20
	斎藤 寛峻	2	34'36"1	5	21
4	菅野 均	3	32'38"7	4	6
	深渡 慎一郎	2	32'39"5	5	7

● 女子オープン結果

氏名	学年	記録	総
及川 まりや	3	17'29"5	1
小高 真依	3	20'00"2	29
鈴木 はるか	3	20'11"7	31
石井 花織	2	21'59"2	40
鈴木 絢子	1	18'20"9	7
村松 純	2	18'57"9	18

応援に来て下さった先輩方(敬称略)

井上幸信 彦坂幸毅 吉田真人 小平圭一 鈴木義教 青柳光裕 大淵真波 八木洋光
佐藤圭祐 斎藤純 田中裕志 望月明人 岩崎辰哉 早坂達也 箭内正輝
また斎藤純さんには塩飴、冷却シートの差し入れを頂きました。

この他にも多くの OB・OG の方が応援に来て下さったと思います。全員のお名前を把握しきれず、申し訳ありません。応援ありがとうございました。

第 62 回全国七大学対校陸上競技大会

兼 第 22 回全国七大学対校女子陸上競技大会(7/24) 於 厚別陸上競技場

7月24日に北海道の厚別陸上競技場にて七大戦が行われました。男子総合3位、女子総合4位でした。たくさんのOB・OGの方々が応援に来て下さいました。ありがとうございました。

～主将挨拶～

OB、OGの皆さま、気持ちのこもった沢山の応援本当にありがとうございました。今年度の七大戦は北海道ということで遠方の方の中には現地まで足を運ぶことが叶わなかった方も居られたとは思いますが、震災に影響されることなく、無事に総合優勝目指して七大戦に参加することができたのは皆様の支援があったからだと思います。

私達は皆様の声援を力に七大戦に臨みましたが、結果は男子3位、女子4位と期待に応えることは叶いませんでした。個々の結果としては良い結果を出すことができた者も居りましたが、やはりチームとして臨んでいることを考えれば悔しい結果でした。しかし、女子は昨年よりも順位を2つも上げ、男子も2位の京大には1点差と今後の可能性に期待できる結果ではありました。現在の4年生は人数が少ないので来年以降の戦力はほとんど落ちないと思いますし、万遍なく点数を取れるようになってきている現在の東北大学陸上競技部ならば今後の総合優勝に期待できると思います。

私達4年生は今回の七大戦で最後でしたが、後輩達には勝利に向かって熱くつき進む姿を見ることができたと思っています。私個人としては残念ながら自己ベストを更新することは叶いませんでしたが、結果は残せたと思っています。主将として様々なことに関わっていく中で多くの人に支えられ、多くのことを学ぶことができました。七大戦を境に新しいチームへと変わっていきますので、私達4年生も学んだことを生かしてOB、OGの皆様方のように全力で支えていきたいと思っています。

今後とも東北大学陸上競技部を宜しくお願いします。

東北大学陸上競技部 主将 杉本和志

第 62 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 大阪大学	88点	(T: 33点(4))	F: 59点(1))
2 京都大学	75点	(T: 45点(1))	F: 30点(3))
3 東北大学	74点	(T: 29点(5))	F: 45点(2))
4 東京大学	58点	(T: 45点(1))	F: 13点(5))
5 名古屋大学	41点	(T: 38点(3))	F: 3点(6))
6 北海道大学	41点	(T: 20点(7))	F: 21点(4))
7 九州大学	22点	(T: 21点(6))	F: 1点(7))

第 22 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1	名古屋大学	27 点	(T : 17 点(1))	F : 10 点(1))
2	北海道大学	23.5 点	(T : 17 点(1))	F : 6.5 点(2))
3	京都大学	9 点	(T : 6 点(3))	F : 3 点(5))
4	東北大学	8 点	(T : 4 点(5))	F : 4 点(4))
5	大阪大学	6 点	(T : 5 点(4))	F : 1 点(6))
6	東京大学	5.5 点	(T : 0 点(7))	F : 5.5 点(3))
7	九州大学	1 点	(T : 1 点(6))	F : 0 点(7))

トラック

男子 100m 予選

1-2	3 着	伊藤 亮輔(3)	11"10(+0.1)
2-2	3 着	畠山 真慈(3)	11"27(+1.2)
3-5	6 着	吉羽 正太(1)	11"67(+1.2)

伊藤はスタートから低姿勢を保ち、良い加速を見せる。後半少し伸びなかったが、3 着に入りプラスで拾われ決勝進出。自己ベストも記録した。

畠山は反応の良いスタートからどんどん加速し、中盤でもスピードを維持して 3 着でフィニッシュしたが、惜しくも決勝進出を逃した。

吉羽はスタートで出遅れ、厳しいレースとなる。必死に追うが差は埋まらず、6 着でフィニッシュ。

男子 100m 決勝

6 位 伊藤 亮輔(3) 11"13(-0.5)

昨年に続き伊藤が決勝進出。得点が期待される。

伊藤はスタートで少し出遅れるが、低い姿勢から徐々に加速して差を取り戻す。後半少し固さが見られ、上位陣に差をつけられるが、それでもスピードを落とさず 6 着でフィニッシュ。チームに得点をもたらした。本人は記録に納得できないかもしれないが、来年は

10 秒台を叩き出し更に上位で勝負することを期待したい。



写真：100m 決勝を走る伊藤

女子 100m 予選

1-4	3 着	中山 なつみ(2)	13"33(+0.6)
2-2	5 着	千葉 愛里沙(1)	13"86(+2.0)

中山はスタートで出遅れたが中盤の加速で順位を上げ、加速からのトップを長く維持し 3 着でフィニッシュ。昨年に続き決勝進出を果たした。

2 組目の千葉もスタートで遅れをとったが、後半へ向けて良い加速で追い上げた。5 着でフィニッシュしたが、決勝進出にはあと一歩及ばなかった。

女子 100m 決勝

4位 中山 なつみ(2) 13"03(+1.1)

去年に続いて中山が決勝進出。得点に絡みたいところ。若干追風で、好条件であった。

中山はまずまずのスタートからぐんぐん加速し、上位争いを展開。後半も崩れず4着でフィニッシュ。女子チーム待望の短距離での得点をもたらした。まだ先がある選手であるので、来年は表彰台と12秒台を期待したい。



写真：上位争いをする中山

男子 200m 予選

1-7 4着 伊藤 亮輔(3) 22"41(+2.3)

2-5 5着 畠山 真慈(3) 23"56(+3.3)

3-6 3着 鈴木 一輝(4) 23"43(+2.3)

伊藤はまずまずのスタート。カーブで緩やかに加速し、後半もスピードを維持して4着。

畠山もスタートはまずまず。リラックスした状態で加速しストレートに入ったが、上体がぶれたためか思うように伸びず5着でフィニッシュ。

鈴木は思い切りよくスタートし、徐々に加速しつつカーブをぬける。ホーム中盤でややスピードを落とすも踏ん張り、3着でフィニ

ッシュしたが、昨年が続く決勝進出は惜しくもならなかった。

男子 400m 予選

1-6 6着 高橋 純(3) 53"43

2-3 1着 高林 佑輔(4) 49"93

3-8 2着 赤平 和紀(4) 50"92

高橋はスタートから序盤を飛ばす。前半はスピードを維持していたが、最終コーナー入りから失速し始め、ホームでは周りについていけず6着。

高林はゆったりとしたスタートから加速してバックストレートを快調に飛ばし、その後も目立った減速はせず、最後は余裕を持って1着でフィニッシュ。決勝に期待のかかる走りであった。

赤平はスタートから飛ばしてうまく加速し、前半を終えた時点で優勢にレースを進める。カーブで失速し順位を落としたがホームストレートで再び加速を見せる激走。2着に入り決勝進出を決めた。

男子 400m 決勝

2位 高林 佑輔(4) 49"12

8位 赤平 和紀(4) 52"68

昨年3位で表彰台に登り、今年も勢いに乗る高林と予選で大学ベストを大幅更新して決勝進出した赤平の4年生コンビが出場。

高林はスタートから攻めの走り。終始先頭争いをしながらホームに差し掛かる。ラスト100mで競り負けるが粘り、2着。自己ベストも記録した。

赤平も序盤から飛ばしていく。バックストレートでは上位陣につけたが、最終カーブを抜けてからホームで大きく減速し、8着でフィニッシュ。



写真：トップ争いをする高林

女子 400m 予選

1-8 6着 房内 まどか(3) 65"41

2-3 5着 千葉 愛里沙(1) 66"11

房内は周りの選手に遅れをとることなくまずまずのスタート。バックストレートにかけての加速、伸びがもう一つだったが、ラスト100mは粘りの走りを見せ6着でフィニッシュ。

千葉はスタートで体が起き上がってしまい、前半遅れをとる苦しい展開となる。それでもホームでは踏ん張ってひと伸びを見せ、追い上げて5着。

男子 800m 予選

1- 6着 荒川 和哉(2) 2'06"67

2- 4着 金子 修平(2) 1'59"79

3- 3着 辻川 優祐(3) 1'58"83

荒川の出場した1組目は最初の400mをスローペースで入る。荒川はそれまでしっかりついてきたが、後半フォームが乱れ始めて失速し、6着。

2組目には金子が登場。1周目を58"で通過すると、金子は前に出る。ラストは少し疲れたか、減速して順位を落とし4着。

3組目にはPC辻川が出場。1周目を57"の良いペースで通過。ラスト300mで前に出るが、最後は2選手と競り合いながら3着でフィニッシュ。プラスで拾われ、昨年に続く決勝進出となった。

男子 800m 決勝

6位 辻川 優祐(3) 2'00"85

昨年8位の雪辱を晴らしたい辻川が決勝進出。予選のラストで少し力を使ったのが気がかり。

先頭がハイペースで引っ張る中、辻川は集団後方で400mを57"で通過する。2周目に入りじりじりと上位に離され始め、ホームストレートに入った時点で5位。ラストはきつくなり一人にかわされるも、粘ってそのまま6着でフィニッシュ。PCの意地で得点をチームにもたらした。

女子 800m 決勝

3位 及川 まりや(3) 2'17"46

14位 荒木 佳那子(4) 2'39"49

昨年3位入賞の及川と最終学年の女子主将荒木が出場。多少雲が出て、走りやすい中でのレース。



写真：先頭集団で走る及川

スタートから2人共勢いよく飛び出し、及川は先頭集団、荒木は中ほどにつく。先頭は3人に絞られ、及川はラスト1周でスパートをかけるがなかなか離すことができない。ラスト100mで激しく競り合いながら3着でフィニッシュ。荒木は前半快調に飛ばしていたが、後半ペースが落ちる。最後は踏ん張りを見せ、ゴールした。

男子 1500m 決勝

- 1位 三上 和樹(2) 4'02"97
 16位 山根 由経(2) 4'14"45
 18位 藤澤 萌人(2) 4'15"26

今季3分台を出し勢いに乗る三上、インカレで自己ベストを記録した藤澤、怪我の大野(3)に代わり急遽出場となった山根の3人で挑む。得点が期待される種目。

序盤は三上、藤澤は先頭集団について1周目は65"で通過。山根は集団後方につける。中盤目立った動きはないが、ラストへ向けての位置取り争いが激しくなる。2周目が終わったあたりで藤澤が2番手につけ、三上は少し後ろで様子をうかがう。ラスト400m、藤澤が一気に前に出ようとした時に他の選手と交錯し転倒してしまうが、三上は先頭につけ、残り250mでトップに立つとそのまま逃げ切り優勝。転倒した藤澤、山根は最後苦しく



写真：先頭集団で走る三上(右)、藤澤(左)

なるが粘ってフィニッシュ。藤澤の転倒は惜しかったが3000mSCに続き東北大が優勝を果たした。

女子 3000m 決勝

- 4位 鈴木 絢子(1) 10'22"07
 12位 鈴木 はるか(3) 11'35"53

晴れて気温が上がった中でのスタートとなった。

スタート直後から名大の選手が1人飛び出し独走。鈴木(絢)は2位集団につけ、前半から積極的なレースを展開する。鈴木(は)は集団中程につけるが、中盤に入るとじりじり離される。鈴木(絢)は前半のハイペースもあってか少しずつペースが落ち、終盤1人にかわされるが最後はスパートをかけ4位でフィニッシュ。惜しくも表彰台は逃したが得点をもたらす快走であった。鈴木(は)も後半苦しくなり我慢の走りとなるが、最後は粘りを見せゴールした。

男子 5000m 決勝

- 11位 菅野 均(3) 15'34"04
 17位 木村 慎太郎(3) 16'14"16
 21位 尾形 洋平(4) 16'52"09

インカレと同じメンバー3人が出場。

スタート直後から一人飛び出し、後ろは大集団となる。最初は3人共集団についたが、2000m前に尾形が、2000m過ぎに木村が集団から離される。菅野は集団につくが、3000mを過ぎて集団の先頭が大幅にペースを上げ、菅野はついていけなくなる。3選手とも終盤はかなり苦しい走りとなり、踏ん張るも入賞者を出すことはできなかった。

男子 110mH 予選

- 1-4 3着 向出 周太(2) 15"92(+3.0)
 2-4 4着 渋谷 知暉(3) 15"65(+2.3)
 3-3 3着 千葉 優人(1) 15"72(+2.5)

調子を上げてきている向出、渋谷、千葉の3選手が出場。

向出はスタートから1台目までの入りは問題なかったが6台目からやや遅れ始める。しかし粘り強く後半を凌ぎ、3着。

渋谷はキレイのいいスタートを切り、5台目まで首位争いをしていたが6台目で合わず、体勢を大きく崩してしまう。しかし素早く持ち直して4着でフィニッシュし、プラスで拾われ決勝に進出した。

千葉は目立ったミスは無かったが、少しハードリングが浮き過ぎていた。終始自分のリズムでレースを展開し、そのまま3着でフィニッシュしたが惜しくも決勝進出はならなかった。

男子 110mH 決勝

2位 渋谷 知暉(3) 15"27(+2.9)

昨年7位と悔しい結果に終わった渋谷が今年は上位を狙って決勝に出場。

再レースの上にフライングもあったが、渋谷は出遅れることなくいつも通りのキレイのいいスタート。途中何台か倒すものの体勢を大きく崩したり減速することはなく、終盤伸びを見せて競り勝ち2着。昨年の雪辱を晴らす嬉しい表彰台となった。



写真：表彰を受ける渋谷

男子 400mH 予選

1-3 5着 向出 周太(2) 59"65
2-3 6着 藤井 翼(3) 58"43
3-6 3着 千葉 優人(1) 56"17

気温がそれほど高くなく、風もほぼない中でのレース。

向出はスタートから3台目まではテンポ良く走っていたが、5台目を越えてから失速し、ラスト100mでも持ち直すことはできず、5着。

藤井はスタートは反応良く出ることができ、5台目までは順調なレース運び。しかし6台目以降にやや遅れだし、8台目ではハードルにぶつかって少し失速。10台目を越えてから必死の伸びを見せたが取り戻せず、6着。

千葉は3台目までは加速・ハードル共に問題なく、5台目までは良いレース展開だった。6台目からややトップに遅れを取り始めるも明らかな失速は見られず、そのまま3着でフィニッシュ。しかし惜しくも拾われず、決勝進出はならなかった。

男子 3000mSC 決勝

1位 深渡 慎一郎(2) 9'17"08
5位 尾形 翔平(3) 9'33"45

本戦最初のトラック競技。高校時代から切磋琢磨してきた深渡とPC尾形が出場。やや暑く日差しの強い中でのレース。

2人とも序盤は集団中盤につける。深渡は1000m付近で先頭につき、3'05というなかなかのペースで1000mを通過。尾形もその2秒後を走る。1000m~2000mは深渡は先頭集団でレースを進め、尾形は第2集団後方につく。深渡は2000mを6'16で通過すると水濠で一気に他の選手を引き離し先頭へ。そのままラスト1周に入り、圧巻の独走を見せる。

尾形も7番手につけ、ラストでチャンスをおかたう。深渡は他の選手を寄せ付けず優勝。高校以来の自己ベストも記録した。6位に順位を上げた尾形はラスト150mで脅威の粘り。後ろの選手の猛追を振り切り、前の選手を刺して5位に。二人で得点を稼ぎ、幸先の良いスタートとなった。



写真: 健闘をたたえ合う尾形(右)、深渡(左)

男子4×100mR 決勝

6位 46"84

畠山(3)-伊藤(3)-鈴木(4)-高林(4)

1走の畠山のスタートはまずまず。そこから素晴らしい加速でカーブを走り抜け、いい位置で2走へのバトンパスに入る。しかしバトンを渡す際に伊藤との距離が詰まり過ぎ、うまく合わせられず転倒。伊藤はすぐに戻り転倒した畠山からバトンをもって再加速。伊藤、鈴木としっかりバトンをつなぎアンカーの高林へ。この間他のチームにもミスがあり、高林へ渡った時点で6位。高林は必死に追うがわずかに届かず、6着でフィニッシュした。部記録を目標としてここまで戦ってきただけに悔しい結果だが、畠山、伊藤はこの悔しい経験を必ずや来年につなげてほしい。

女子4×100mR 決勝

6位 52"11

房内(3)-中山(2)-千葉(1)-下島(2)

1走房内は反応良いスタートから加速し、まずまずの出だし。バトンパスは少し詰まったが安定したパスで2走中山へ。中山は差を詰めつつ他のチームに離されることなく良い走りで3走千葉へ。バトンパスはうまくつながった。千葉はカーブでうまく加速できなかったのか伸びがもう一つであり、位置を少し落とすも粘りの走り。アンカー下島は踏ん張りを見せたが競り負け、6着でフィニッシュ。得点はならなかったが、来年も全員が残る若いチーム。先に期待ができる走りと言える。

男子4×400mR 決勝

5位 3'21"18

千葉(1)-岡崎(2)-赤平(4)-高林(4)

1走千葉は反応良いスタートから加速し、周りに離されずに進んだ。最後100mで疲れが見えたが、粘りの走りを見せトップからあまり離れない位置で2走岡崎へ。岡崎は素晴らしい加速から合流後も快調に飛ばしたが、最終コーナーから失速し、順位を少し下げて3走赤平へ。赤平はバックストレートで思い切りよく加速し先頭を狙う。しかし最後の100mで疲れが見え失速、順位を落としてバトンパス。アンカーの高林に全てを託す。高林は序盤から素晴らしい攻めの走りを見せ終始減速することなく順位を上げたが、ラストのコーナーを周ってからの勝負でわずかに競り負け、5着でフィニッシュとなった。選手にとっては納得のいく結果ではなかったかもしれないが、攻めの姿勢が伝わってくる素晴らしいレースであった。

フィールド

男子走高跳決勝

2位	山田 健太郎(1)	1m90
8位	岡部 大輝(1)	1m85
10位	奥 裕之(2)	1m80

奥、岡部は1m75からの挑戦。2人共安定した力強い跳躍で、1m75、1m80を一発でクリア。しかし奥は1m85に入ると助走からの流れと跳躍をうまく噛み合わせることができない。1、2本目は高さが出ず、3本目は高さは出たが頂点を合わせることができず失敗。体は越えていただけに惜しい跳躍であった。岡部は1本目は高さが出なかったが、2本目はスピード感のある助走から力強い踏み切りを合わせてクリアした。1m85から登場した山田は1本目はカーブをうまく走ることができずに跳躍が崩れ失敗となったが、2本目は流れに乗った跳躍で余裕を持ってクリアした。

1m90では岡部は2本目にリズムの良い素晴らしい跳躍を見せたがわずかに触れてしまい失敗。そのまま改善できず惜しくもこの高さを越えることはできなかった。山田は風が強い中全く動じず、早めの助走からうまく合わせてクリアした。

この時点で表彰台を確定させた山田。1m95は失敗したが試技数差で勝ち、2位に入賞した。

女子走高跳決勝

1位	安部 瑛里奈(1)	1m55
6位	星 麻沙美(2)	1m40

昨年に続いて出場の星と、期待の新戦力・安部が挑む。

星は1m35から挑戦。ここはスムーズな助走からの跳躍で余裕を持ってクリア。

1m40からは安部も登場。星は1回目惜し

くも落とすが、2回目に修正して高さのある跳躍でクリア。安部はこの高さを中心に余裕を持ってクリアする。

1m45に入ると、星はバーを意識したかうまく流れに乗れず高さが出ない。最後は持ち直していい跳躍を見せたがわずかに触れて失敗。安部は抜群の安定感でここも1回でクリア。

安部は1m50も少し余裕を持って一発でクリア。優勝をかけた1m55も、これまでの跳躍を崩すことなく会心の跳躍で越えていき、見事に優勝。女子チームに大きな得点をもたらした。



写真：安部の跳躍

男子棒高跳決勝

1位	高橋 理寛(3)	4m50
NM	藤井 翼(3)	
NM	佐藤 裕貴(2)	

昨年と同じ3人で挑む。高橋はNMだった昨年の雪辱を果たしたいところ。

藤井、佐藤は3m40からスタート。しかし藤井は直前の400mHの影響が大きかったか跳躍に切れがなく、力を発揮することができない。この高さを越えることはできず、無念のNMとなった。佐藤は1、2本目は足が合わず自分の跳躍ができないが、3本目は合わせて高さのある跳躍を見せる。しかしポール

を戻すことができず、ポールでバーを落とした。佐藤も悔しいNMとなってしまった。

高橋は4m20から登場。抜群の安定感と調整力で4m20、4m40を一発クリア。4m50は少しバーに触れるも一発でクリアし、表彰台は決める。4m60でも安定した跳躍を見せるが高さがわずかに出ず失敗。しかし試技数差でもう一人の選手を下し、見事一昨年ぶりの優勝を果たした。



写真：集中力を高める高橋

男子走幅跳決勝

2位 岡崎 和貴(2) 6m97(+3.1)

3位 鈴木 一輝(4) 6m88(-1.1)

13位 安井 令(3) 6m40(+0.0)

今期7m台の自己ベストを記録している岡崎と鈴木、PCの安井と昨年と同じメンバーで挑む。

安井は1本目で記録を残すも助走スピードが足りず。2本目は踏み切りがピッタリで記録をわずかに伸ばして6m40とするが、もう一伸びが足りない。そのまま記録を伸ばせず、ベスト8に残ることはできなかった。

鈴木は助走がなかなか合わない。1~3本目は踏切のかなり前だったり、詰まり過ぎたりと苦しむが6m78を記録しベスト8に残る。4本目も風の変化に対応できず足が合わないが、5本目に踏み切り位置を改善していつものような伸びのある大きな跳躍。6m88を

記録し3位に浮上。最後は記録を伸ばせなかったが、昨年に続く3位表彰台を獲得した。

岡崎は一本目、踏切も良く高さのある跳躍で6m97の好記録を残す。しかしこのとき足を痛め、残りの競技はパス。それでもこの記録で2位を守り抜き、鈴木と共に表彰台を獲得した。



写真：鈴木の高橋

女子走幅跳決勝

6位 中山 なつみ(2) 4m83(+1.8)

8位 金子 奈緒(1) 4m34(+1.7)

去年に続き中山、そして1年生の金子が出場。

中山は1本目、スピード感のある助走から踏切板を踏まなかったが4m82を記録。改善のしようによっては5mも期待されたが、その後は足を合わせにいてしまい持ち前のスピードを生かした跳躍ができない。2本目に4m83と記録を伸ばしたがその後は助走が乱れ、ベスト8に残ったものの記録を伸ばせず。6位で競技を終了した。

金子は安定した踏み切りを続けたが、スピードがもう一つというところ。しっかり記録は残し、ベスト8に残り8位で競技を終了した。

両者ともより思い切りのよい跳躍ができれば、この先まだまだ記録の成長は期待でき

ると感じた。

男子三段跳決勝

8位 森田 貴大(2) 13m70(+2.7)

11位 田中 悠貴(2) 13m18(+3.5)

棄権 岡崎 和貴(2)

幅跳びで足を痛めた岡崎は棄権。森田と田中の2人で挑む。

田中は1本目、強い追い風のためか踏切がかなり詰まり、ファール。2本目では多少合わせに行ってもステップで潰れてしまったが、13m18の自己ベストを記録する。3本目は踏切が合わずに記録を伸ばせず、ベスト8入りはならなかった。

森田は、踏切はそれほど問題なく、力強い跳躍を見せ2回目で13m70を記録し、ベスト8に残った。4本目以降は少し跳躍に伸びがなくなり、足を痛めてしまいステップ、ジャンプに上手くつなげられず記録を伸ばすことはできなかった。惜しくも得点はならなかったが、来年に期待できる内容であった。

男子砲丸投決勝

1位 柳澤 邦彦(3) 12m40

11位 山崎 大志(2) 9m00

14位 酒井 利晃(1) 8m67

前年度優勝の柳澤、冬で力をつけた山崎と、新戦力の酒井が出場。

柳澤は1投目、角度の良い投げで11m61の記録を残すと、2投目はさらにリズムよく勢いのある投擲で12m40を記録、2位以下に大きな差をつけてのトップとなる。この後は記録を伸ばすことができなかったが、圧巻の実力を見せつけ今年も優勝、連覇を果たした。

山崎はグライドの動きは悪くなかったものの、投げの角度と伸びがもう一つというところ。それでも3投目にしっかり記録を伸ば

してきた。酒井は投擲に力みがみられ、思うような投擲ができない。しかし山崎同様、3投目では力のこもったこの日一番の投擲を見せた。



写真：気迫のこもった柳澤の投擲

女子砲丸投決勝

8位 星 麻沙美(2) 6m52

棄権 下島 千歩(2)

下島は怪我のため棄権。星一人の出場となった。

星は1本目、グライドで体勢を崩して外に出てしまいファール。しかし2本目は流れのいいグライドから良い投げを見る。3本目はさらに勢いのあるグライドからしっかり腕を突き出して6m52を記録。ベスト8に残る。この後は記録を伸ばすことができなかったが、期待できる投げが見られた。

男子円盤投決勝

1位 柳澤 邦彦(3) 44m14

11位 石川 遼(1) 30m55

12位 山崎 大志(2) 29m44

暖かく風も弱い中での競技。3連覇を狙う柳澤と山崎、インターハイ経験のある1年生石川の出場。

柳澤は1投目まずまずの記録を残すと2投目、低い重心からスムーズなターンで

41m61 を投げる。ベスト 8 に入ってからにはさらに集中力が増して 4 投目、リバースまで勢いがあり流れの良い投擲で 44m14 を記録。2 位の選手も追いつき 43m 台の投げをしてくるがこれには及ばず。3 連覇を果たし、同時に 44m 越えの記録により全日本インカレへの出場権も獲得した。

石川はターンが安定せず 1 本目はファール。2 本目は思い切りが足りなかったか円盤に伸びが出ない。しかし 3 本目は持ち味のスピード感のあるターンからしっかり振り切り、全体として少し動きが小さかったものの 30m55 を記録した。ベスト 8 に残ることはできなかったが、最後に記録を伸ばす集中力を見せた。

山崎は 1 本目、フィニッシュが少し半端であったが無難に記録を残していく。2 本目は 1 本目よりもスピード感のあるターンからの前方向に勢いのある投げであったが、勢い余ってファール。惜しい投擲であった。3 投目は安定したスムーズなターンから力強い投げで 29m44 の自己ベストを記録したが、一伸びが足りず 30m は逃した。

男子ハンマー投決勝

4 位 柳澤 邦彦(3) 37m11

10 位 山崎 大志(2) 26m95

13 位 田澤 央充(4) 25m90

昨年に続き柳澤と山崎、そして春からハンマー投げを練習してきた 4 年生田澤の 3 人が出場。

柳澤は円盤と砲丸で優勝を決めて勢いがある中での競技。1 本目、スムーズなターンからフィニッシュも力強く決め、いきなり 37m11 の大幅自己ベストを記録しトップに躍り出る。しかしその後はターンから投げへの流れがうまくいかず、記録を残すことができない。最終的に順位を落としたが 4 位に入

り、惜しくも表彰台は逃すも去年以上の成績を残した。

山崎は 1 本目、ターンの流れは良かったもののフィニッシュで力んでしまいファール。2 本目はトラック競技のレース中で集中しづらい中しっかり集中力を高め、力強い投げで 26m95。しかしあと一歩及ばず、ベスト 8 入りはならなかった。

田澤は 1 投目はターンでバランスを崩しファール。2 投目はそれを改善し、流れの良いターンで加速して力強い投擲。インカレでの記録を大きく上回る 24m18 を投げる。3 投目、一回ターンを失敗し仕切り直してから投擲は、2 投目をさらに上回る力強い投げ。25m90 のベストを記録。得点に絡めなかったが、この 2 カ月で脅威の成長を見せた。

男子やり投決勝

1 位 杉本 和志(4) 65m85 GR

3 位 伊藤 泰彬(1) 59m35

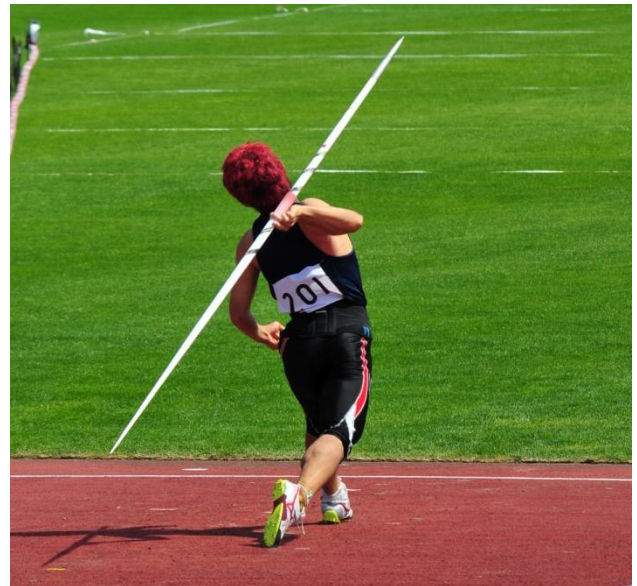
10 位 高橋 航(2) 49m90

連覇と昨年自身が塗り替えた大会記録の更新を狙う主将杉本は、1 投目から 62m 台の投げでトップに立ち、他を寄せ付けない。2、3 投目も 60m 越えの安定した投げを続ける。そして 4 投目、持ち味の速い助走からの爆発力のある投げは 60m ラインを大きく越えて 65m58。自身の大会記録を更新する。これでは終わらず 6 本目の最終投擲で角度も伸びも抜群の投げを見せ、65m85 と更に記録を伸ばす。自己ベストには僅かに及ばなかったが、圧倒的な実力を如何なく発揮し連覇を果たした。

インカレでは振るわなかった伊藤であったが、1 投目でいきなり 59m35 を投げ、本来の実力を発揮する。その後も 50m 後半の投げを連発し、60m にはわずかに届かなかったが 3 位。これから先、杉本の後を継ぐ存

在になっていくだろう。

高橋はなかなか自分の思うような投擲ができない。1投目はまずまずの記録を残したが2投目はもう一伸びが出ず、3投目は助走が詰まりながらも記録を伸ばして49m90としたが、ベスト8にあと一步及ばず、悔しい結果となった。



写真：杉本の投擲

応援に来て下さった先輩方(敬称略)

森山利勝 宮崎鉄男 村橋光臣 岩松正記 彦坂幸毅 葛西陽介 吉川雄朗 佐藤道由
小平圭一 渡辺翔太郎 鈴木義教 野崎莉代 松本洋 青柳光裕 斎藤春恵 川口亮平
八木洋光 岡本聖司 加藤聡 佐藤圭祐 田中裕志 中野一誠 原田貴正 柴田智弘
平聖也 飛内茜 新田和樹 望月明人 阿部佑亮 一之倉聖 岩崎辰哉 鈴木貴幸
千葉絵里子 新沼啓 本間亮太 箭内正輝

この他にも多くのOB・OGの方々が応援に来て下さいました。全員のお名前を把握しきれず申し訳ありません。多くのOB・OGの方々から水、スポーツ飲料、氷などたくさんの差し入れを頂きました。大変暑い中でしたので、とても助かりました。忙しい中で駆けつけて頂き、誠にありがとうございました。

今回、新たに大会新記録が生まれましたので、七大戦での大会記録保持者の最新版を掲載します。

七大戦記録保持者

男子 1500m	橘 明德	3'52"23	第 55 回(2004)
男子 5000m	橘 明德	14'38"98	第 55 回(2004)
男子円盤投	柳澤 邦彦	44m48	第 60 回(2009)
男子やり投	杉本 和志	65m85	第 62 回(2011)

#自己記録更新者一覧(6/29~7/24)

男子

・100m			
伊藤 亮輔(3)	11"00	(七大戦)	
畠山 真慈(3)	11"27	(七大戦)	
・400m			
高林 佑輔(4)	49"12	(七大戦)	
赤平 和紀(4)	50"92	(七大戦)	
・800m			
金子 修平(2)	1'59"79	(七大戦)	
・1500m			
森部 峻介(3)	4'16"46	(七大戦)	
・5000m			
森部 峻介(3)	15'53"47	(七大戦)	
工藤 佑馬(4)	16'34"17	(七大戦)	
・10000m			
菅野 均(3)	32'38"7	(全日予選会)	
深渡 慎一郎(3)	32'39"5	(全日予選会)	

・走幅跳			
鈴木 一輝(4)	7m11	(宮城県選)	
・三段跳			
森田 貴大(2)	13m70	(七大戦)	
・円盤投			
山崎 大志(2)	29m44	(七大戦)	
・ハンマー投			
柳澤 邦彦(3)	37m11	(七大戦)	
山崎 大志(2)	26m95	(七大戦)	
田澤 央充(4)	25m90	(七大戦)	

女子

・100m			
中山 なつみ(2)	13"03	(七大戦)	
・3000m			
鈴木 絢子(1)	10'22"07	(七大戦)	
・砲丸投			
星 麻沙美(2)	6m52	(七大戦)	

#今後の予定

9月3日	東北大学対北海道大学定期戦	小樽
9月9~11日	天皇賜杯 第79回日本学生陸上競技対校選手権大会	熊本
9月17~19日	国公立22大学対抗陸上競技選手権大会	古川
10月1~2日	東北学生陸上競技選手権大会	宮城野原
10月8日	OB戦	評定河原

#編集後記

まず、副務からお願いがあります。住所などに変更がございましたら、副務までご連絡をお願いします。

登録情報変更の連絡先

住所：〒980-0815 宮城県仙台市青葉区花壇 2-1 評定河原グラウンド内
東北大学陸上競技部三秀会

Mail : hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

部としての共通目標であった七大戦が終わりました。多くの OB・OG の方々に応援に駆けつけていただき、力を頂きました。本当にありがとうございました。男子優勝、女子 3 位という目標の達成は成りませんでした。持てる力全てを尽くしての結果です。この結果をしっかり受け止め、来年へ向けての糧として 1~3 年生は次の七大戦へ向けて精進していく所存です。また自分は今の 4 年生が抜けたら学部生最終学年になります。今回の戦いで 4 年生の方々が見せてくれた七大戦に向けての姿勢や、熱い思いは下級生の心に深く刻み込まれているはず。今まで活躍というほどの活躍をできていない私も最終学年として、新しい道で一華咲かせてやろうと考えハンマー投げを現在練習中です。もし投擲の先輩方で評定にいらしたときに僕の姿が見えたら、アドバイスなど頂けたらとても嬉しいです。

七大戦が終わって PC や主将などは交代となり、新体制で臨んでいくこととなります。今後とも東北大学陸上競技部を宜しくお願い致します。

文責 副務 八柳 暁

#OB 通信発行方法の変更について

三秀会では、「部員の負担を軽くする」、「部員への補助を手厚くする」を目標に掲げました。その一環として、今号から OB 通信の印刷、発送を業者に委託し、副務および折り込み作業を行う 1, 2 年生の負担軽減を実現します。また、印刷版は A4 版にすることでページ数を減らし、経費を削減します。(電子版は既に A4 版。今回の場合、電子版 16 ページに対し印刷版 12 ページ、印刷コスト 25%削減。)

更なる経費削減のため、来年度から印刷版の発送回数を減らす予定です。具体的には年 6 回発行(1, 3, 5, 7, 8, 11 月)のうち、3 月号は三秀に同封し、5, 7 月号は合併号として発送します。電子版はこれまで通り年 6 回発送します。印刷版をお受け取りの方は電子版への移行をご検討願います。

平成 5 年卒 久保 正樹